

編集後記

ようやく梅雨が明け夏本番です。今年の梅雨では線状降水帯という言葉が数多く聞かれ、大雨に関するスマホの警戒アラームで何回も目を覚ますことがありました。異常気象の一部かと思われますが、日頃から対策をしっかりと考えていく必要があると感じました。

「誌上ギャラリー」は、橋口良紘先生の、「鹿児島市都市農業センターのヒマワリ」でとてもきれいな夏の一コマです。

「緑陰特集」には多くの先生方にご寄稿いただきました。

小田原良治先生からは、藤沢周平さんの三屋清左衛門残日録をご紹介いただきました。原本を読んでみたくなる内容です。

鹿児島大学の堀内正久教授からは、先生のご親友の思い出と鹿児島大学医学部の新入生に対する期待をご寄稿いただきました。

有村義輝県臨床検査技師会会長からは、検査の源流を紀元前4世紀ギリシャのヒポクラテスまでさかのぼり説明をしていただき、また「検査と健康展」のご紹介をいただきました。

鹿児島医療技術専門学校の高吉 進先生には、言語聴覚療法学科の教員になり感じたことを綴っていただきました。

相良有一先生からは、松下幸之助さんとサミュエル・ウルマンさんの言葉を引用して、青春は心の持ち方であると解説いただきました。

西 昌平氏からは、ボーイスカウト運動と薩摩の郷中教育の類似点・関連について説明をいただきました。

杉元羊一教育長からは「楽苦備～雑話」と題して、ラグビーワールドカップに纏わる話題と「教育」で結びの言葉が述べられております。

三反田千代子食生活改善推進員連絡協議会会長からは、来年のかごしま国体でのおもてなし郷土菓子として「さつまぼうろ」と「春駒」の作り方を紹介いただきました。

児玉敬三県栄養士会会長からは、「病を受けとめる力」をご自身の経験をふまえて解説いただきました。

安樂 剛消防局長からは、鹿児島市の火災発生状況から「住宅防火の4つの柱」と、救急出場状況、鹿児島市医師会との相互連

携についてご紹介いただきました。

林 敏雄先生からは、昭和初期から終戦直後までのとても印象的な少年時代の思い出をご紹介いただきました。

田畑千穂子県看護協会会長からは、令和元年度鹿児島県看護協会の活動をご紹介いただきました。2019年11月に日本看護学会・慢性期看護・学術集会を鹿児島で開催される予定で鹿児島市医師会としても多くの支援をいたしたいと思います。

武元良整先生からは市医師会臨床検査センターからの「Panic Value」という連絡システムについてご紹介いただきました。

鯨島信一先生からは、方言の面白さをご紹介いただきました。所変われば言葉が変わり、楽しい逸話がたくさんありそうです。

「くすり一口メモ」は、メラトニン受容体作動薬とオレキシン受容体拮抗薬の特徴を解説いただきました。不眠症治療の有用な情報です。参考にさせていただきます。

「学術」コーナーでは南風病院糖尿病・内分泌内科中嶋満浩先生より「SPECT-CT画像が診断のきっかけとなった化膿性仙腸関節炎の1例」を報告いただきました。貴重な症例を有難うございました。

「医師会病院だより」は、馬見塚勝郎緩和ケア科部長より緩和ケア科の現状と今後の課題、田中佐代子栄養管理室長より栄養管理室の現状と取り組みを紹介いただきました。

「切手が語る医学」は、古庄弘典先生より、アイルランドとタンザニアの切手を紹介いただきました。身体障害・リハビリ・社会保障に関連する切手です。

リレー随筆は鹿児島大学病院 河野眞子先生より中学・高校時代の思い出を寄稿いただきました。皆さんもそれぞれに思い出があると思います。

令和元年度全国高等学校総合体育大会は「感動は無限大 南部九州総体2019 響かせる我らの魂南の空へ」を標語として鹿児島・熊本・宮崎・沖縄・和歌山で開催されます。関係される先生方もおられると思いますがケガ・病気の無い万全の状態で多くの高校生が実力を発揮していただきたいと思います。

(副編集委員長 帆北 修一)